



## 指標の分析

平成29年度の通信指令機器は、通信指令システム整備計画どおり更新されている。

## 4. 施策の評価

### これまでの主な取組と成果

- ①消防救急無線維持管理事業では、消防救急無線設備を正常かつ円滑に稼動ができるよう保守管理し、保守業務委託することにより設備の停止等のトラブルもなく運用できた。また、無線機器の整備及び更新を行い、通信体制の充実を図った。
- ②通信指令システム維持管理事業では、通信指令システム更新計画に基づき、耐用年数に応じた機器の更新をした。また、通信指令システムを保守業務委託することにより、適切な維持管理ができた。
- ③内部情報システム維持管理事業では、事務系ネットワークシステム更新にあたり、情報セキュリティを強化するための対策として、メールの無害化及びメール添付ファイルの検疫機能を導入し、情報セキュリティ無事故100%を達成した。また、総合情報ネットワーク(LGWAN)とインターネットの分離を行い、総務省より発出された「自治体情報セキュリティ緊急強化対策に係る留意事項について」に則したネットワーク構成ができた。

### 今後の課題

- ①消防救急無線維持管理事業は、消防救急デジタル無線の耐用年数を見極める必要がある。
- ②通信指令システム維持管理事業は、高機能指令台が平成31年度に部分更新、平成36年度には全部更新を控えている。全部更新については、更新の状況を踏まえ通信指令センターの位置や運用方法等の検討が必要である。
- ③内部情報システム維持管理事業では、情報セキュリティ事故が発生した際に、情報セキュリティポリシーに定められている対策基準や管理体制の認識が不足している状況にあるので、職員を対象とした情報セキュリティ教育が必要である。

### 今後の展開

- ①消防救急無線維持管理事業では、消防救急デジタル無線の耐用年数を他機関を通じて研究していく。
- ②通信指令システム維持管理事業では、高機能指令台全部更新に向けての課題を克服し、通信指令システムが正常かつ円滑に稼動するよう取り組む。
- ③内部情報システム維持管理事業では、職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施し、情報セキュリティに対する意識の啓発を図るとともに、情報セキュリティポリシーの内容を認識し遵守させる。

5. 構成事務事業の評価

事務事業名	主要施策名	事業種別	平成29年度	事務事業 評価/ 総合評価	有効 度	優 先 度
			決算額(千円)			
1 消防救急無線維持管理事業(消防局)	221 消防救急無線の整備	行政管理(財産等管理/法律等)	32,629	B 4	B	B
2 通信指令システム維持管理事業(消防局)	222 消防通信機器の整備	行政管理(財産等管理/任意)	83,233	B 3	B	B
3 内部情報システム維持管理事業(消防局)	222 消防通信機器の整備	施設管理(施設の維持管理/要綱等)	37,603	B 3	A	A
4			0			
5			0			
6			0			
7			0			
8			0			
9			0			
10			0			
11			0			
12			0			
13			0			
14			0			
15			0			
16			0			
17			0			
18			0			
19			0			
20			0			
小 計			153,465			
合 計			153,465			

構成事務事業の 適当性	消防通信施設の整備に向けた消防救急無線の整備と消防通信機器の整備を具現化するための各事務事業の取り組みは着実にその成果が表れている。また、内部情報システムについても、指標としている情報セキュリティ無事故達成率を維持する取組がされており、構成事務事業の適応性は高いものと評価する。
----------------	---